

令和7年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和8年5月吉日
学校法人東京キッズ学園
調布白菊幼稚園

1. 本園の教育目標

「やさしい心の元気な子」

- ・挨拶と返事のできる明るい子
- ・強い身体にやさしい心
- ・人に親切、仲良く助け合う気持ち
- ・よく考え、進んで学ぶ
- ・規律正しい団体生活

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「子ども達が充実した体験を得られる環境を目指す。」

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	製作環境の向上	<p>○造形キャビネットを準備することで製作道具や材料、廃材等が身近にあることで、子どもたちのやりたい時、思いついた時に行動する姿が見られた。</p> <p>○造形キャビネットがあることで、使用する道具が整理しやすい環境ができ、道具の整理整頓やし入れしやすい環境となった。</p> <p>○専門講師を幼稚園に招き、子どもたちと普段の保育では使う機会が少ない木材や洗濯バサミ等で造形あそびを行うことで、保育者の造形知識を獲得することができ、あらたな造形遊びができる種類が増えた。</p> <p>○造形あそびで使用した材料を保育で自由に使えるように取り入れることで、遊びの続きができるように場所の確保を行った。そうすることで、さらに発展した遊びができています。</p> <p>○段ボールカッターを用意することで、大きな段ボールを使用しての製作にも意欲的に取り組む姿が見られた。</p>
2	玩具の扱い方の向上	<p>○絵本コーナーの本の種類をテーブルで分け、視覚で片付ける場所を認識しやすくすることで、元の位置を確認しながら片付ける姿が見られた。</p> <p>○造形キャビネットがあることで、ハサミの持ち運び方やセロテープの扱い方などを自身で考えて片付ける姿が見られた。</p> <p>○今まで使ったことのない道具については保育者が、その道具の使い方を伝えると共に、危険性を教えていくことで慎重に扱う姿も見られた。</p>

3	防災・災害対応の向上	<p>○防災用品に含まれているもので、普段使いができるもの（消毒液や絆創膏など）をローテーションすることで、期限切れを防いでいる。</p> <p>○バス運行中の災害に対応するため、防災マップを作製し、バスの現在地からの避難場所までの移動を紙で確認できるようにした。</p> <p>○災害対応の幅を広げるため、幼稚園内にあるもので何が災害時に役に立つを確認した。（灯油やLPガスの転用など）</p> <p>○消防署と連携し、避難の仕方や消火器の扱い方を見ていただき、実際に発生した際のアドバイスをいただいた。</p> <p>○元々ある防災食の数と種類を増やし、災害中でも食事を満足できるように備えている。</p>
---	------------	---

4. 今後取り組む課題

- 新しい製作道具が増えた分、製作の幅は広がったが扱う時に、集中力が視野を狭まってしまう傾向があったので、周りへの危険性も伝えていく。
- ハサミ等の危険とされる製作道具も使用するので、年齢に合わせたルールを改めて話し合っていく
- 防災について想定すればするほど、様々な準備や備えるものが出てくるため、「生きるための3日間」を目標に必要・不必要を話し合いながら備えていく。
- 被災した場合、実際はパニック状態になっていると考えられるので、被災1日目、2日目、3日目の日ごとに適切な量と使用物を誰でも分配できるように食糧分配表を作成する。
- 絵本の色分けテープが剥がれてしまい、片付ける場所がわからなくなってしまうことがあったため、子どもたちには剥がれてしまったら先生に伝えることや剥がれていることに気付いたら保育者まで持ってくるように改めて伝える必要がある。
- 最初、造形キャビネットの使い方を説明せず、迷っている姿が見られた為、保育者の言葉かけと一緒に使う事で最大限活用できるようになった。そのため、今後、物によっては初めて使うものは一緒に使いながら使い方を教えていく。
- 普段の遊びではなかなか取り扱う機会が少ない木材だったが、香り、感触、形に興味を持ち、積み重ねたり、叩いて音を聞いたり、嗅いだりなど様々な遊びを楽しむ子どもの様子が見られ、子どもの興味を引き出していく素材の準備や環境を整えていく。